

## 平成 26 年度 記者懇談会（第 4 回）の記録

日 時 平成 26 年 7 月 25 日（金）午後 3 時 00 分  
場 所 水道庁舎 4 階 会議室  
記者数 10 人  
同席者 阿部副市長、上谷副市長、総務部長、企画財政部長  
次 第 1 市民交通安全緊急集会について  
2 緊急告知 FM ラジオの一般販売について  
3 G 空間シティ構築事業の採択について  
4 その他について

### 1 市民交通安全緊急集会について

#### 説明内容

##### （市長）

まず 1 件目、市民交通安全緊急集会についてご説明させていただきます。

ご存じの通り、7 月 13 日日曜日の夕方でしたが、小樽市銭函の海水浴場「ドリームビーチ」へ通じる市道において、女性 4 人を巻き込む飲酒ひき逃げ事故が起きました。これはすでに報道された通りでございます。

被害に遭われた 4 人の方はいずれも岩見沢農業高等学校の卒業生で、3 年間一緒に青春時代を過ごした同級生。卒業後も仲が良くこの日も一緒に海水浴に行った帰りと聞いております。

この事故により、3 名の方がお亡くなりになり、お一人は重傷で今も入院をされております。

このような悲しい事態を受けまして、市といたしましては、交通安全推進委員会や岩見沢警察署、岩見沢市教育委員会などと連携いたしまして、改めて交通安全の推進と飲酒運転の根絶を目指すことを目的に、「市民交通安全緊急集会」を催すことと致しました。

日時は 7 月 28 日月曜日、来週の月曜日でございます。午後 1 時 30 分から、駅前のコミュニティプラザ 4 階にございますマルチメディアホールにおいて、犠牲に遭われた 3 名の方々への黙祷に始まりまして、岩見沢警察署長の交通安全講話、さらには交通安全宣言を行うこととし、終了後には駅前におきまして短い時間ではありますが街頭啓発も行う事になっております。

突然の催しということもありまして、会場設定から運営まで、不備が多いかもしれませんが、とにかく早い時期に一度、アクションを起こしたいというふうに考えて企画させていただいた次第でございます。

既に市のホームページ上にはアップしておりますし、駅前において街頭啓発に合わせチラシの配布も行っておりますので、ご存知の方もおられるかもしれませんが、改めてお知らせをさせて頂いた次第でございます。

なお、当日は飲酒運転体験ゴーグルというスキーのゴーグルの様なものをかけて、酩酊状態が体験できるというコーナーも設け、参加者に実際に体験して頂こうという事も岩見沢警察署の協力により予定されておりますのでよろしくお願いいたします。

### **質疑応答**

#### **（北海道新聞）**

当日の参加予定の人数の規模って、どれぐらいなんですか。

#### **（市長）**

約 200 名を予定しております。

#### **（北海道新聞）**

協力団体というのは、ここに（チラシ）書いているのが全て、ということでしょうか。

#### **（市長）**

そうですね。

#### **（北海道新聞）**

市長として、この前の飲酒事故について、受け止めをお聞かせいただけませんか。

#### **（市長）**

大変ショックを受けた事故でした。なおかつ、岩見沢の高校を卒業されたということもございますし、岩見沢市民の方もいらっしゃいます。なおかつ、年齢も 29 歳から 30 歳ということで、これから社会にとって大変重要な世代の方々、女性が 3 名も亡くなったということで、飲酒運転の恐ろしさ、事故の悲惨さといったものが、この際、市としても強いメッセージを発信すべきだと考えました。

それが何よりも、残念にも事故で亡くなられた方々に対する私どもの責務ではないかと考えております

#### **（北海道新聞）**

市職員への飲酒運転の防止対策というのは、何かされているのでしょうか。

#### **（市長）**

当然のことながら、綱紀の肅正の一環ということも含めて、特にこれから暑くなります。まあ気温に関係なく、常日頃から飲酒運転は認めない、ということで、十分周知徹底をはかっているところでございます。

## **2 緊急告知 F M ラジオの一般販売について**

### **説明内容**

#### **（市長）**

それでは 2 点目、緊急告知 F M ラジオの一般販売について、でございます。災害時における避難情報などの緊急情報を迅速かつ確実に伝達するための仕組みといたしまして、平成 25 年度に「緊急告知 F M ラジオシステム」を導入し、あわせて緊急告知 F M ラジオを公共施設、あるいは社会福祉施設、民生委員、あるいは町会・自治会などに無償貸与を行っているところでございます。

本年度からは、このラジオの一般販売を行うことといたしまして、個人や町会で購入する場合には、1台2,000円、事業所で購入の場合については4,000円で販売をすることとしております。

販売開始につきましては、8月25日月曜日から、市役所本庁、北村・栗沢の両支所で販売を行います。

また、この一般販売については平成26年度、27年度の2か年間の事業として行うこととしております。全世帯の約10%の普及を目標としておりまして、4,000台の販売を見込んでいる次第でございます。平成26年度において2,000台、同じく平成27年度も2,000台を販売する予定としているところでございます。

## **質疑応答**

### **(北海道新聞)**

昨年度の公共施設というのは、どこらへんに配布をされたのでしょうか。

### **(市長)**

無償貸与したのは町内会149、民生委員163、社会福祉施設81、市を含めた公共施設が180で、573台の配布を終えています。

### **(北海道新聞)**

他の自治体でも同様の取り組み事例ってあるのでしょうか。

### **(市長)**

私どもが参考にしたところは同じようなシステムで、無償貸与と併せて、個人・団体等々へ購入希望を出してもらい販売しています。単価はそれぞれの設定があるようですが、できるだけ個人負担を少なくするというので、1台確か1万円近くするラジオなので、個人負担を2,000円、事業所には4,000円をご負担いただくことで普及を図っていくということでございます。

### **(北海道新聞)**

これまでにこれが鳴るような事態というのはなかったのでしょうか。

### **(市長)**

ないですね。

### **(総務部長)**

試験放送は月に1回実施していますが。

### **(FMはまなす)**

1台2,000円で個人の方に販売するというのですが、もし2台目を買いたいということになっても、その方は2台目も2,000円で購入できるのでしょうか。

### **(市長)**

そういうことになります。

### **(FMはまなす)**

これは市役所の防災対策室で市民の方が直接購入する形となるのですか。

### **(総務部長)**

直接、防災対策室での販売となります。

**(市長)**

随時、電話による予約等々も対応することにしております。

**(プレス空知)**

たら・れば、の話になりますが、もしたくさんの方がワッと買いに来て、今年予定していた 2,000 台で足りなくなっちゃった、という時にはどうするのでしょうか。前倒しして翌年度分を出すのでしょうか。

**(市長)**

製作期間がどうしても必要になってきますが、今年予定していた分が全て出るような場合は、前倒ししてでも対応することを考えています。

### **3 G空間シティ構築事業の採択について**

#### **説明内容**

**(市長)**

3点目、最後になります、G空間シティ構築事業の採択について、ということでございますのでよろしくお願いいたします。

総務省が平成 25 年補正予算分にて公募し、岩見沢市が代表団体として提案してまいりました「G空間シティ構築事業」について、総務省から 7 月 18 日付で候補事業として決定した旨発表がありました。

今回の公募では、合わせて 5 種類のテーマ別に提案を求められた形でございます、計 10 事業が決定したもので、北海道では岩見沢市の案件が唯一ということでございます。

当該事業につきましては、総務省が発注をする形での研究・実証業務でありまして、今後、詳細を協議し 8 月下旬に契約をし、3 月までに成果報告をあげる、という形になります。

事業費は、8 月の契約時に確定となりますが、100%総務省の予算ということで、約 6,500 万円程度になる見込みでございます。

続きまして、お手元の資料、別紙 2 でございます。

総務省では、「G空間情報(地理空間情報)と位置情報の ICT による利活用を促進し、経済の成長力の底上げ、国土の強靱化を図るため、実証プロジェクトを実施する」としてありまして、岩見沢市の提案では、準天頂衛星の活用(GPS から準天頂衛星、GNSS に乗り換える)を視野に、昨年より積極的な取り組みを進めております農業分野や雪対策など、地域課題に対応した利活用について検証を進めることとしている次第でございます。

- ・農業分野における高度利用
- ・災害非常時における情報の共有
- ・高精度測位情報を活用した除排雪の支援
- ・バス運行支援などカメラによる道路状況の把握等を実施する予定でございます。

続きまして、資料別紙 3 になります。

本事業におきましては、昨年秋（平成 25 年 10 月）に岩見沢に設立されました「I T 活用による地域課題検討会」のメンバーである北海道大学農学部野口教授、酪農学園大学の金子教授に加えまして、農業と雪対策という共通課題を持つ秋田県の 2 つの自治体を含むコンソーシアムを構成し、提案を行ったところでございます。

岩見沢市を代表団体といたしまして、秋田県大館市（おおだてし）、鹿角市（かづのし）との広域連携という形でございます。

実施責任者は、北海道総合研究調査会といたしまして、総務省の委託料の受け、あるいは関係支出は同調査会経由となりますので、岩見沢市の予算自体の補正等については必要ないということでございます。

なお、実施にあたりましては「いわみざわ I C T 農業利活用研究会」、これは市内の農業者であります東井様が会長をなさっておりますけれども、農業生産者 112 名で平成 25 年 1 月に設立をしている団体でございますが、その団体に協力いただきながら、実際の農作業における有効性を検証することとしています。

今後につきましては、当該事業で得る成果をもとに、農業分野でのさらなる活用手法をはじめ、防災面、豪雪対策を含みますが、他分野での積極的な活用を目指したいと考えております。

なお、総務省といたしましては、平成 27 年度当初予算への継続事業として計上も予定しているということございまして、引き続き、情報収集にも努めてまいりたいと考えております。

## **質疑応答**

### **（北海道新聞）**

なかなかイメージが掴みづらいんですけども、農業や除排雪への活用というのは分かるんですが、I C T をどう活用するんでしょうか。G P S とか位置情報みたいなものを活用していくということなんでしょうか。ちょっとイメージがつかめないんですけども。

### **（市長）**

昨年、岩見沢市独自で実証実験を行いました G P S の活用ですけれども、農業機械に G P S を付けて作業の効率化を図るということで、ロスのない運行、燃料費の削減、作業時間の短縮、といったことを去年、実証実験しました。

また冬には、除雪作業に G P S を活用しまして、冬期間は除雪をせずに春になってから除雪を行う路線においては、これまで、ポールなどを見て、機械操作を行う作業員の経験で作業をしていましたけれども、G P S で正確な位置がトレースできますので、所要時間が短縮されますのと、苦労が減るなどの有効性がはっきりしてまいりました。

ひとつは一次産業にまず 1 回使う、というところからスタートしてまして、これについては独自にやっています農業気象情報と組み合わせることによって、オープンデータ、さらにはビッグデータになりますけれども、要は岩見沢市の基幹産業である農業の効率性を上げていく、規模の拡大と併せて、あるいは新たな産業をめざしていくという農業の振興を図るという一助にもなるだろうと思っています。

また、G空間の情報ということで、GPS等々の情報は他にも展開分野があるので、一つは雪、除排雪対策に使っていく。そこに今度はカメラ等のICTを組み合わせることで、冬期の路面状況の確認ですとか、作業のリアルタイムでの把握ですとか、そんなこともやっていきたいと思っておりますし、先ほど申し上げました災害時の情報共有のプラットフォームを作っていく、というようなことで、広く、農業の振興だけではなくて、岩見沢市が直面している課題について、ICTをツールとして、産業としてのレベルアップを図っていくし、市民生活のレベルアップも図っていく、というようなことが基本的なテーマになります。

#### **(北海道新聞)**

これ、ずっと順調に進んだらどういうところまで、どういうイメージのものになっていくのでしょうか。除排雪、農業等々。

#### **(市長)**

これまで大きな課題であった農業、除排雪の効率化を含めて、になりますけれども、そういった分野での展開が十分できるように考えています。それから農業の新たな参入ということで、いままで代掻き作業にせよ田植え作業にせよ、農家の方が自分で運転していたんですね。それを自動操縦のGPSを付けることによって、正確にトレースできますから、その環境をRTKの補正局を岩見沢市内にもう一か所つける予定をされていて、3か所でほぼ全体をカバーできることになりますので、非常に正確なトレースができるということと、経験がなくてもできるということになります。そうしますと人手が減る、ロスがなくなる、ということになってまいります。

そうすることで、収益率の高い農業を目指していく、そういう基盤整備に使えるというふうに感じています。

夏は農業、冬は除雪というような、通年利用ができると考えています。例えば公共交通機関の事業者にも、今どこの路線をどのように作業を行っているということが、リアルタイムでわかるというようなことも考えられます。

もっともっと、より多くの展開というのがこれからスタートするのではないかと考えております。

#### **(読売新聞)**

除雪の機械を半無人化する、というようなことなんでしょうか。

#### **(市長)**

いえいえ、除雪機械は事故の可能性があるので、自動でやるというのではなく、正確なトレース、作業の効率化を図り、作業の負担を減らすということです。

例えば除雪機械でまったく何の目印もないところを正確に除雪していくとします。GPSをもっと正確にすることで、側溝などの支障物をうまくかわしながら作業効率良く除雪していくことが可能となります。

#### **(NHK)**

カメラは除雪機械に付けるのでしょうか。それともバスなどに。

#### **(市長)**

カメラは定点上で道路の必要な場所に付けることが決まっています。

**(NHK)**

常に状況把握ができるような形で街角にカメラを付ける、ということでしょうか。

**(市長)**

そういうこともできますし、作業用車両に付けることもできます。そういうことをこれからいろいろと検討していくということでございます。

#### **4 その他について（記者からの質問）**

##### **質疑応答**

**(北海道新聞)**

映画の「ぶどうのなみだ」なのですが、公開が近付いていまして、岩見沢が舞台ということで、大変なチャンスだと思うんですけども、PRがそんなに進んでないように見えるんですが、映画公開に合わせて市としてぶどうの産地としての売り出し、あるいはワインの産地として売り出すという、そういう取り組みって今後、どのようになるのでしょうか。

**(市長)**

道内の一般公開が10月4日、全国公開が10月11日からと、確かそういう公開の日程なんですけれども、岩見沢市単独だけでなく、三笠市、栗山町も併せてなんですけれども、この映画の公開を機に、地域の良さをPRしていこう、ということで、撮影場所のマップの作成、それから、ノベルティグッズの作成等々を考えています。

**(上谷副市長)**

協議会を結成して、そこで協議して作るような形をとっています。

**(北海道新聞)**

協議会ができるんですか。

**(上谷副市長)**

協議会はすでに結成されています。

**(市長)**

宝水ワイナリーがほとんど8割ぐらい、撮影場所でしたけれども、宝水だけではなくて、岩見沢のワイナリー、もしくはヴィンヤード。空知全体のワイン振興も図っていく、ということで、総合振興局と連携を取って、そういう協議会を作ってPRしていくということになります。

**(北海道新聞)**

パンフレット作る以外にはどんな感じなんでしょうか。

**(市長)**

ノベルティグッズといますか、販促グッズといますか。それから情報誌にも紙面を取ってPRするとか、イベントでの告知・PRですとか。

**(上谷副市長)**

先日も大通りのピアガーデンで岩見沢の農産物らPRとともに、「ぶどうのなみだ」是非ご覧ください、ということでPRさせていただきましたし、ポスターなんかも貼り出しているところです。

**(市長)**

いまのところ、製作会社のポスターとイベント等での告知が主なものになるんでしょうけれども、そのうち、プロモーションビデオなども出てきますので、そちらの方とも連携しながら、なかなかないチャンスですからしっかりと対応していきたいと考えています。

**(プレス空知)**

いまお話がありました、協議会を結成しました、ということだったんですけれども、いつごろ結成して、窓口ってというのはどこになるのか、というのを教えてもらえればと思いますけれども。

**(上谷副市長)**

空知総合振興局になりますね。当市では観光物産振興課が窓口で、三笠市などとも一緒に動いております。

だいたい2か月ぐらい前からやっていますので、もう結構活動しています。

**(市長)**

詳細は関係セクションである観光物産振興課にお尋ねいただくと分かると思いますので、よろしくお願いします。

まだ試作の段階のプロモーションビデオを1回見たのと、完成品の映画の試写も、関係者だけの公開時に1回見ましたけれども、そういった映像での告知がどんどん広がっていくと、認知度も上がってくるのかなあとと思います。10月の公開に合わせてテレビ・スローだとかいろいろなPR媒体を使っていこうと思っています。

**(北海道新聞)**

映画を観てのご感想はどうだったんでしょうか。

**(市長)**

いいです。ストーリーは家族愛といいますか、そういうのがテーマですけれども、私は「しあわせのパン」も観たんですけれども、申し訳ないですけれどもずっといい映画になったかなという感じがしますね。もちろん地元で撮ったということもありますけれども、そういった撮影にも多少携わることができた、という想いもあるので余計そうなのかもしれませんけれども。作品としてはとてもいい作品だと思います。

また空知と言う意味でも、空知のいろいろなものを使っていただいていますから、製作会社の社長さんの想い、監督の想いもありますし、いい作品だと思います。

**(北海道新聞)**

もうひとつ、サイクリングの方なんですけれども、これも周辺市町村と協力しながら、新しいイベントとして実施するんですけれども、今年度の意気込みというか、今後の展開ってどのような感じになるんでしょうか。

**(市長)**

それはサイクリングの協議会を作って、空知全体で岩見沢市、美唄市、滝川市、深川市ですか、市が中心となって、空知総合振興局はもちろんですけれども、8月の16・17に初めてイベントが開かれるんですね。

17日がコースを分けて、美唄市をスタートして、100キロコースは岩見沢を通過して美唄に戻るようになっています。



もうすでに申し込みが 200 名に達している状況にあって、非常に好評なんだそうです。それと併せて、グルメを提供するところもいろいろ増えてきているということは聞いております。空知には空知の風景があって、参加される方にとって楽しんでいただける風景だと思うので、こういった取り組みと言うのが、今後いろいろと拡大していくんじゃないか、と期待しているところです。

全道的にそういうふうになっていくんじゃないですかね。浦河町でも台湾自転車協会の会長さんが走られていますし、浦河だとほとんど牧場の中を走ります。空知だと水田ですとか麦畑だとかというところがありますし、特に岩見沢・美唄あたりは石狩平野の東淵部なので、そこからちょうど丘陵地帯が始まるといった景色もありますし、魅力的なイベントになるんじゃないかな、と期待をしています。

#### **(プレス空知)**

今月の頭からでしたか、サマーレビュー始まっていますけれども、まだ続くんですけど。

#### **(市長)**

もう終わりました。大きなくくりで 12 のテーマについて、課題等の共有を行い、解決に向けての具体的な道筋をつけよう、として行いました。大きなテーマで言えば各自治体に共通するテーマもありますし、岩見沢固有のテーマもありました。

#### **(プレス空知)**

そんな中で、予算の補正を伴わず、即効性のあるものというのはあったのでしょうか。

#### **(市長)**

大きなテーマでやっていたので、当初から予定していた事業については着実に進めるということと、全体としてのトーンは、これから社会構造がどんどん変わっていくので、このことに対して岩見沢市はどのように対応して行くのかを議論しました。

例えば人口減。これが岩見沢市にとって社会面での影響ですとか、経済面での影響ですとか、それぞれの施策に対する影響ですとか、そういったものをきちんと把握してやりましょう。その影響をいま、具体的な戦略を立てましょうというのが大きなテーマでした。共通している部分でした。

#### **(北海道新聞)**

人口減については、先日、総務大臣の増田さんが来て講演されたんですけども、戦略と言う部分では、何某かの考えはおありですか。

#### **(市長)**

いろいろと人口減少に対する取り組みと言うのはあると思います。例えば、小規模な自治体で効く政策と、ある程度の人口規模になると、同じことをやってもなかなか効果が出てこない施策と違ってあるんですね。一概には作れないんですよ。ただ、今後人口が減っていく中で、必要な社会基盤をどこに重点を置いて整備するのか。

かねてから私申し上げていますが、岩見沢市の特性と言えれば一つは農業ですし、一つは利便性だし、一つは I C T の基盤だと思っています。そこからの発展を目指していく、いままでは経済の下支えという意味で、例えば公共事業費については適切な執行と一定規模を確保している訳ですけども、今後、そういうことは減少して

いくということが見込まれるので、中長期の財政計画を作って皆さんにお示しをしているんですけども、モノとカネの集積だけではなく、やはり今度はヒトの集積を図らなければならないと考えています。

例えば産業の集積を図る場合にも、その時にもどの産業の集積を図るのか、併せてヒトの集積を図るとすればどのように行えば良いのか、きちんと見据えていかなければならない、というふうに考えています。

ただやっただけでは意味がなくて、ヒトの集積と産業の集積をどういうふうに図っていくか、というところだと思います。

自治体によっては出生数を上げるというところにポイントを置いていく自治体もあるかもしれませんが、社会減を抑え込むというアプローチの仕方もあるでしょう。それによっていろいろと違ってくるんだらうな、というふうに感じています。

(注) 記録の内容については、重複した言葉遣いや、明らかな言い直しがあったものなどを整理した上で作成しています。(作成：岩見沢市秘書課広報係)